

福祉建設経済委員会現地視察報告書

現地視察における調査結果について、下記のとおり報告します。

令和6年3月4日

光市議会議長 木村信秀様

光市議会福祉建設経済委員会

委員長	田	邊	学
副委員長	中	村	讓
委員	大	田	敏司
委員	河	村	龍男
委員	小	林	隆司
委員	笹	井	琢 (副議長)
委員	田	中	陽三
委員	萬	谷	竹彦
委員	森	戸	芳史
随	行	西	優

記

- 1 視察年月日 令和6年1月24日(水)～25日(木)
- 2 視察先
 - (1) 兵庫県明石市
 - ア 手話言語・障害者コミュニケーション条例について
 - イ 共生のまちづくりについて
 - (2) 兵庫県三田市
 - ア 「さんだ里山スマートシティ」について
 - (ア) 害獣対策について
 - (イ) 中型自動運転バス実証実験について
 - (ウ) 自動車走行データを活用した路面状況把握について
- 3 調査結果等 別紙のとおり

福祉建設経済委員会行政視察調査結果

日 時	令和6年1月24日（水）13：15～14：45
市町村名	兵庫県明石市（人口 306,030人 面積 49.42km ² 議員定数 30名）
テ ー マ	1 手話言語・障害者コミュニケーション条例について 2 共生のまちづくりについて
視察場所	明石市議会棟 大会議室
説 明	明石市政策局インクルーシブ推進室 明石市福祉局生活支援室障害福祉課

1 明石市の概要

明石市は兵庫県の南部に位置するまちで、市の東部には日本の時間を決める基準となる東経135度日本標準時午線が通っており、阪神都市圏、播磨臨海地域、淡路・四国とを結ぶ陸海交通の要衝である。

「こども医療費の無料化」や「第2子以降の保育料の完全無料化」など、子育て環境の整備や教育に特に力を入れ、「こどもを核としたまちづくり」を推進しており、子育て世代の転入等により、11年連続で人口増加となっている。

2 視察内容

（1）手話言語・障害者コミュニケーション条例について

ア 条例制定までの経過

平成26年9月から、障害者（ろう者、難聴者、視覚障害者）、コミュニケーション支援従事者や学識経験者からなる検討委員会を設置し、委員以外のコミュニケーションが困難な障害者からもヒアリングを実施するなど、当事者の声を聞き取り条例案を取りまとめた。

条例案は、パブリックコメント（49名から74件の意見応募あり）を経て、平成27年3月の市議会に条例案を提出、全会一致で可決、4月から施行された。



イ 手話言語・障害者コミュニケーション条例の概要

（ア）基本理念

- 障害のある人とない人が相互の違いを理解し、その個性と人格とを互いに尊重する。
- 利用者の障害特性に応じてコミュニケーションを円滑に図る権利を最大限保障する。
- 手話が独自の言語体系と歴史的背景を有する文化的所産であると理解しつつ、手話を普及する。

（イ）市の責務

- 事業者等が合理的配慮できるよう支援
- 市民に対する普及・啓発

- 環境整備
- 調査、研究への協力
- (ウ) 市民の役割
 - 基本理念に対する理解を深め、手話等コミュニケーション手段の普及、利用促進に係る市の施策に協力する。
- (エ) 事業者の役割
 - 基本理念に対する理解を深め、市の施策に協力するとともに、合理的配慮の提供に努める。
- ウ 条例制定後における新たな施策
 - (ア) 平成 27 年 9 月補正予算による施策
 - 遠隔手話通訳用タブレットの購入
 - 聴覚障害者向け音声同時通訳システムの導入
 - 市後援行事における手話通訳者・要約筆記者の配置に係る助成制度の創設
 - 点字プリンターを導入し、市政情報等に係る文書などの点字対応を実施
 - 市立図書館に拡大読書機、録音図書再生機等を配備
 - 災害ハザードマップの点訳
 - (イ) 手話通訳士の資格を持つ職員の採用
 - 本条例及び障害者配慮条例の取組を充実させるために手話通訳士の資格を有する正規職員 2 名を採用。
 - (ウ) 市内全ての小学校での手話体験教室を開催
 - (エ) 職員対象手話研修及び手話検定受講費用の助成
 - (オ) タブレット端末を利用した遠隔手話通訳や手話での問合せに対応
 - (カ) 手話動画による情報発信
- エ 条例制定後の変化
 - ろう者や関係団体が行政の取組（イベント等）に参加する機会が増えた。
 - 施策の検討や推進にあたり、ろう団体だけではなく、聴覚障害以外の障害者団体とも連携することが増えた。
 - 分かりやすい文書表記や窓口対応、行事の情報保障の方法など、市職員が様々な場面での対応について、改善策を検討するようになった。
 - 手話通訳者の派遣人数が条例制定前（平成 27 年度）から令和元年度の 4 年間で約 1.7 倍に増加した。

(2) 共生のまちづくりについて

- ア 主な経過
 - 平成 27 年 4 月 手話言語・障害者コミュニケーション条例施行
 - 平成 28 年 4 月 障害者配慮条例施行
 - 合理的配慮の提供を支援する公的助成制度開始
 - 令和 2 年 7 月 SDG s 未来都市に選定
 - 令和 4 年 4 月 あかしインクルーシブ条例施行
- イ 障害者配慮条例に基づく各種施策
 - (ア) 合理的配慮の提供を支援する助成制度
 - 商業者や地域の団体が障害のある人に必要な合理的配慮を提供するために必要な費用を市が助成。
 - コミュニケーションツールの作成（上限 5 万円）
 - 点字メニュー、チラシの音訳、コミュニケーションボード など
 - ⇒平成 28 年度～令和 4 年度の助成実績：37 件、助成金額 628, 111 円

○物品の購入（上限 10 万円）
折り畳み式スロープ、筆談ボード など
⇒平成 28 年度～令和 4 年度の助成実績
442 件、助成金額 6, 273, 794 円

○工事の施工（上限 20 万円）
簡易スロープや手すりなどの工事の施
工に係る費用
⇒平成 28 年度～令和 4 年度の助成実績
: 67 件、助成金額 9, 233, 275 円

(イ) 障害理解の研修の取組

○市職員等を対象とした研修
・ユニバーサルマナー研修
・知的障害の疑似体験を通して知的障
害者を理解する研修
・発達障害理解研修
・手話基本研修 など

○市民、事業者への周知・啓発の取組
・ユニバーサルマナー研修を民間事業
者を対象に実施
・出前講座の実施

(ウ) 障害理解の普及・啓発の取組

○多様性への理解を深める市民参加型の
交流イベントを実施

○障害者配慮条例のパフレットを作成

○希望する障害当事者をユニバーサルモニターとして登録してもらい、日常生
活で不便と感じたことや改善策に関する意見聴取を実施

○事業者団体への条例の周知

(エ) 差別に関する相談事案の対応

障害者配慮条例施行後、4 つの相談窓口を設置

⇒平成 28 年度～令和 4 年度の相談実績：72 件（あっせんの申立てはなし）



【コミュニケーションボード】



【筆談ボード】

3 主な質疑応答

Q：共生のまちづくりについて、段階的に取組を推進されているが、その経緯は？

A：障害者配慮条例の制定が当初の目的であったが、障害者配慮条例を作るためには当事者の声を聞く必要があり、そのために手話言語・障害者コミュニケーション条例の制定が必要と考え、手話言語・障害者コミュニケーション条例の制定を先行させた。

Q：「共生のまちづくり」の推進により、障害者等の転入は増えているのか？

A：障害者等の転入が増えているという印象はないが、まちの中で障害者の姿を見る機会は多く、普段から外出等の習慣がある方が比較的多いのではないかと。

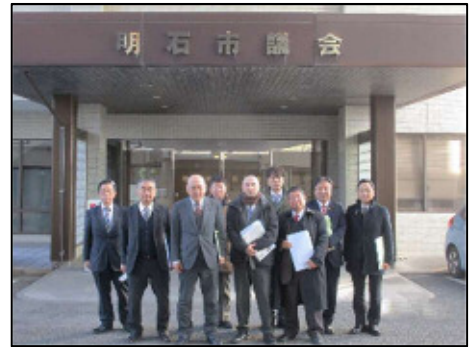
Q：手話通訳士として採用した市職員は、普段どのような業務を担っているか？

A：来庁者の対応や手話通訳者・要約筆記者の派遣調整、本会議や委員会等での手話通訳などの業務を担っている。

4 委員所感

【田邊 学】

光市議会として、これからの共生社会実現に向けて手話言語・障害者コミュニケーション条例制定は不可欠であることは認識出来たが、条例制定に関わるソフト面、及びハード面それぞれの問題点を抽出する必要があり、理念条例として予算を伴わない手話言語・障害者コミュニケーション条例として議員立法で制定する方向性が望ましいと考えられる。



【中村 譲】

この度の手話言語・障害者コミュニケーション条例が導入された明石市の視察はとても良い勉強になりました。この取り組みは、市民の多様性を尊重すると共に、共生のまちづくりを進める上で大きな一歩となっていることが理解できました。

条例を作るにあたっては障害者、コミュニケーション支援従事者、学識経験者からなる検討委員会を設置し、更には委員以外のコミュニケーションが困難な障害者からもヒアリングをするなど当事者に寄り添った進め方をしたところが大変評価できます。そして、手話通訳士の資格を持つ職員の採用、タブレット端末を利用した遠隔手話通訳など、いつでも手話で対応できる職員がおられることにより、安心して市役所に行ける状況を作っています。

光市に於いても明石市の取り組みをお手本に、共生のまちづくりを進めていきたいと思いました。

【大田 敏司】

明石市では、差別を解消する条例の取組として、2015年5月に第1回検討会を始めとして6月から7月にかけて事業者アンケートを実施され、6月に「障害のある人もない人も共に暮らす街づくり」フォーラムを開催。7月には「タウンミーティング」を市内2ヶ所で開催、8月には第2回検討会（※第1回モデル会議）10月第3回検討会議（※第2回モデル会議）11月第4回検討会議（※第3回モデル会議）12月「障害者差別解消の実現に向けて」内閣府と共催で地域共生フォーラムを開催され、12月から翌年1月にかけてパブリックコメントの実施をされ、2016年3月に条例を成立されております。

内容は1、公共交通機関、公共施設サービス等。2、情報、コミュニケーション。3、福祉サービス。4、商品・サービス。5、住宅。6、医療。7、教育、8、雇用の8項目で各障害者への取組が細かに取り上げられ、各サービスが行き届くように記載をされており、市職員を対象とした研修・障害理解の為の研修や市民・事業者への周知・啓発の取組が行われておりました。

光市としてもしっかりと取組をしていかなければと感じられました。

【河村 龍男】

今年度の活動テーマである手話言語・障害者コミュニケーション条例の先進地である明石市を訪問し、詳しく説明を受けました。

2015年5月、障害者差別解消法施行に向け、障害を理由とした差別と思われる事例の検討をはじめ、事業者アンケート、障害者当事者からの差別に関する事例集、フォーラム、タウンミーティングを実施され、内閣府の「障害者差別解消支援地域協議会体制整備事業」の指定や内閣府アドバイザーの参加を受け、モデル会議を開催、「障害者差別解消の実現に向けて」をテーマに内閣府と共催で地域共生フォーラムを開催、パブリックコメン

トを実施し、市議会に条例提案⇒成立の流れであるが、とにかく前明石市長の強いリーダーシップのもと、確実に合理的に実現にこぎつけられた。

差別を解消する為、政策局にインクルーシブ推進室をつくり、まず市職員を対象とした研修を実施。市長、副市長、市幹部職員、市議会議員も検定を受講。

次に市民、事業者への周知・啓発の取組、出前講座を開催。手話通訳士の有資格者を市職員として採用。

条例制定後はろう者や関係団体が行政の取組に参加、市職員の意識の変化、手話通訳士派遣人数の変化。

社会生活上必要なものが多く、関係部局が多岐にわたるため、総合的な対応が必要であるが、ろう者から市議会議員が誕生し、一気に変化、ソフト面に共生社会実現へのやさしさがあふれ、元気のある街ととらえることが出来ました。

【小林 隆司】

手話言語・障害者コミュニケーション条例制定に向けた取組について理解を深めた。条例検討委員会では、コミュニケーションが困難な障害者からヒアリングを行い、より実態に即した課題が集約されており、障害者に対するアプローチが進んでいると感じた。本市において同条例を制定する際には、障害者をはじめ、様々なバックグラウンドをもつ市民と対話を重ねることが必要であり、そのためにも複数のチャンネルを持つことが必要と感じた。また、市職員に対して様々な研修を通じて障害理解の促進を図っていることに加え、民間事業者にも合理的配慮や対応等を学ぶ機会を提供している。これらの取組を通じて、市全体の障害理解が進み、誰もが安心して暮らせるまちにつながっていると感じた。本市の障害に対する市民の理解をより高めるため、現行の障害理解の取組に加え、障害者と市民が直接触れ合う機会の提供が必要と感じた。

【笹井 琢】

平成 29 年 2 月に「子どもを核としたまちづくり」を視察させて頂いて以来の明石市再訪であった。当時の泉房穂市長は退任されたが、そのスピリッツを受け継いだインクルーシブな取り組みであった。手話通訳士の職員採用や小学校における手話体験教室、タブレット端末を利用した遠隔手話通訳など先進的な取り組みを打ち出されているが、その基盤は平成 27 年に施行されている「手話言語・障害者コミュニケーション条例」であることを再度認識した。

【田中 陽三】

明石市において「手話言語・障害者コミュニケーション条例」が制定された背景には、当事者である障害者の皆様の声を聴くのに必要だったからと聞いてすごく納得しました。

明石市は、障害者との共生社会に向けて 5 ステップで先進的に取り組まれている印象でしたが、そもそもが「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」が 2013 年 6 月に成立、2016 年 4 月に施行されることから、2013 年当時の市長が障害のある人への差別を無くす条例の制定（ステップ 3）を公言し、そのために必要な事としてステップ 1, 2 の「手話言語・障害者コミュニケーション条例」の制定を短期間で実現されていました。

B 級グルメイベントで当事者の声で支え合ったり、保護者団体が理解を得るために事業者の説明会を開いたり、まちが一体となって取り組んでいること、まちの変化として障害者が外に出ている姿を見るようになったという事は何よりの共生社会に進んでいる姿ではないかと感動しました。

【萬谷 竹彦】

差別を解消する条例の取組みも背景には、明石市の優しいまちづくりの理念がありました。一気に結果を求めるのではなく、細々とした取組みを、しっかり発信していく事を大切にされていることにすごさを感じました。障がい者を助けるという認識ではなく、1人の役割をもったスタッフと考え、B1 グランプリでも役割分担を決め、活躍されたとの事。また、差別に関する相談事案の対応も4つの窓口を設け、対応しているとの事。そして、平成 26 年に前市長が障がい者コミュニケーション条例を作りますとあいさつの中で発表し、1年足らずで制定に至った経緯を聞き、さらにすごさを感じました。しっかりとした目的意識を持ち、取り組んでいけば、素晴らしい条例ができる、これから参考にしていきたいと思います。

【森戸 芳史】

「やさしい社会」をつくるという泉前市長の強い信念のもと条例づくりがはじまった。条例を具現化するため、小学校での手話教室の開催や手話通訳士の資格を持った正規職員の採用、施策を推進するための会議体の設立など光市と比較しても雲泥の差がある。聴覚障害のある人が議員に当選したことが、スピードを加速化させた。光市でも車いすの議員がおられたが、議員に在籍していないときは障害者施策が後退したといわれたことを今でも鮮明に覚えている。今後もすべての人にやさしい社会の構築を推進していきたい。

福祉建設経済委員会行政視察調査結果

日 時	令和6年1月25日（木）10:00～11:45
市町村名	兵庫県三田市（人口 107,190人 面積 210.32km ² 議員定数 22名）
テ ー マ	【さんだ里山スマートシティについて】 (1) 害獣対策について (2) 中型自動運転バス実証実験について (3) 自動車走行データを活用した路面状況把握について
視察場所	三田市議会 委員会室
説 明	三田市総合政策部未来戦略室スマートシティ推進課 三田市地域共創部産業戦略室農村再生課 三田市まちの再生部都市政策室交通まちづくり課 三田市まちの再生部地域整備室道路河川課

1 三田市の概要

三田市は兵庫県の東南部に位置するまちで、貫流する武庫川流域に農地が広がる。神戸三田国際公園都市北摂三田ニュータウンの開発に伴い、JR福知山線の複線化、神戸電鉄公園都市線のニュータウンへの延伸、高速自動車道路等の広域交通網が飛躍的に整備され、人口が飛躍的に増加した（昭和62年から平成8年、人口増加率10年連続全国1位）。「田園と都市の調和」をモットーに、住み、働き、学び、憩い、そして交流することのできる多機能複合都市として発展している。

2 視察内容

(1) さんだ里山スマートシティについて

ア 三田市のスマートシティ・デジタル推進の経過

- 令和2年10月
スマートシティの推進を公表
- 令和3年3月
・基本的な方向性を公表(官民共創や市民参加など)
・官民共創プラットフォームの設置
- 令和3年10月 市民アンケートの実施
- 令和3年11月 ワークショップの開催
- 令和3年4月～令和4年1月 インターネットを活用したアイデア募集
- 令和4年1月～2月 ロゴマークの市民公募



イ 三田スマートシティ構想

(ア) 使命（ミッション）

デジタルを活用しながら「市民一人ひとりが幸せを実感しながら住み続けられるまち三田」を目指す。

(イ) 将来像（ビジョン）

「ひと」×「まち」×「さと」がデジタルで織りなすスマートシティ三田

ウ 主な事業

(ア) 市民健康アプリサービス

- ・マイナンバーカードで認証を行うインセンティブポイント型健康アプリ。
- ・歩数等のデータを収集・利活用することにより、市民の健康状況の現状把握を行い、次なる健康施策につなげる。

(イ) 高齢者見守り実証実験 ※神戸大学数理・データサイエンスセンターと連携

- ・IoTセンサー等により、高齢者の見守り実証実験を実施。
- ・生活環境データを取得・分析・可視化 ⇒ 在宅高齢者の見守りに活用

(ウ) スマートわな実証実験 ※㈱電信と連携

IOTセンサー等を活用したスマートわなの実証実験を実施（詳細は後掲）。

(エ) 中型自動運転バス実証実験 ※神姫バス㈱、先進モビリティ㈱などと連携

令和2年度から計3回の実証実験を実施（詳細は後掲）

(オ) 路面状況把握実証実験 ※あいおいニッセイ同和損保㈱と連携

保険契約者の自動車走行データから、路面異常推定箇所を収集（詳細は後掲）。

(カ) その他

- ・脳健康度チェックアプリ
- ・地域貢献寄附型ファンド
- ・ワンコイン浸水センサ実証実験
- ・遠隔相談窓口サービス実証実験
- ・市役所のスマート化
（キャッシュレス推進、電子決裁、議会ペーパーレス、ChatGPT など）
- ・マイナンバーカードを活用したスマート図書館サービス など

エ 推進体制

- 令和3年3月、企業や団体、大学等の多種多様な組織が会員として参加する「さんだ里山スマートシティ官民共創プラットフォーム(会長:三田市長)」を設置。
- 各会員は、三田市をフィールドとした主体的な活動を通じた課題解決に取り組む。
- スタートアップやベンチャーなど、様々な会員から課題解決のアイデアやソリューションの提案を受け、実証実験を実施するなど、社会実装を狙う。

(2) 害獣対策（スマートわな実証実験）について

ア 被害等の現状

(ア) 農作物被害額

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
被害額	8,720 千円	9,808 千円	9,862 千円

(イ) 捕獲頭数

種別	令和2年度	令和3年度	令和4年度
イノシシ	262	248	36
シカ	162	158	168
アライグマ	262	409	497
ヌートリア	5	6	6

※豚熱の影響により、令和4年度のイノシシ捕獲頭数は大幅に減少

イ 三田市の主な害獣被害対策

(ア) 鳥獣の個体数減を目的とした捕獲活動

- 三田市鳥獣被害対策実施隊による活動

- 有害鳥獣捕獲檻設置補助事業
- 有害鳥獣捕獲処分報償費
- シカ捕獲拡大対策支援事業（県・市協調事業）
- (イ) 鳥獣の農地への侵入を防ぐ防除柵の設置
 - 有害鳥獣防除柵等設置補助事業
 - 鳥獣被害防止総合対策事業

ウ スマートわな実証実験

市内の鳥獣保護区内に設置しているイノシシ、シカ捕獲わなの一部で捕獲監視システム（スマートわな）を導入し、捕獲活動の省力化等の効果を図る実証実験を令和4年6月から令和5年12月まで実施（「さんだ里山スマートシティ官民共創プラットフォーム会員」である㈱電信との共同研究事業）。

(ア) 機器の内容

- カメラ搭載害獣捕獲監視・通知センサー
 - 罾に捕獲されている野生鳥獣を撮影、静止画をメールで通知。
- 害獣捕獲監視・通知センサー
 - 罾の作動を検知し、メールで通知。
- 害獣対策ダッシュボードシステム
 - ・害獣捕獲監視センサーとカメラ搭載害獣捕獲監視センサーの情報（稼働状況、電波状況、バッテリー残量など）を遠隔地のPCやスマートフォンで一元管理。
 - ・カメラ搭載害獣捕獲監視センサーで撮影した静止画をAIが自動解析し、頭数や鳥獣の種類等を判定。

(イ) 導入経費

- 機器購入費（10基分） 240万円 ※初年度のシステム使用料を含む。
- システム使用料（2年目以降） 約27万円/年
- ※現在は民間事業者との共同研究のため、市の負担はなし。

(ウ) 導入効果（実証実験の結果）

- 点検等の日常管理の負担軽減及び人件費削減が期待できる。
 - ・人件費削減等の効果（見込） 約90万円/年

(3) 中型自動運転バス実証実験について

- ア 背景 高齢化の進展による移動機会の低減と運転手の担い手不足などへの対応
- イ 目標

「レベル4」の自動運転を目標に、令和2年度から計3回の実証実験を実施（現在は「レベル2」の段階）。

【参考：レベル4自動運転】

- システムが全ての運転を実施
- 運転席は無人
- 車内には、保安要員を配置もしくは遠隔監視による安全確保
- ※「レベル2」では、運転手が乗車し、必要に応じて手動での停止や障害物回避の介入を実施

ウ 令和5年度実証実験の概要（3回目の実証実験）

- (ア) 期間 令和5年10月17日（火）～11月26日（日）
- (イ) 運行地域 三田市ウッデイタウン地区
- (ウ) 運行便数 1日6便

(エ) 運賃 大人 200 円

小人 100 円

※障害者等は半額

(オ) 車両 中型バス (いすゞ
エルガミオ) を自動運転バス
に改造

※実証実験にあたっては、「さ
んだ里山スマートシティ官民
共創プラットフォーム会員」
である神姫バス(株)、先進モビ
リティ(株)などの多数の事業者
と連携。

エ 実証実験の結果

(ア) 利用者数 実証実験期間
中、延べ 810 人が利用。

(イ) ドライバーによる手動介入
の状況

バス 1 便あたり、平均約 7 回の手動介入 (ドライバーによる操作) が発生。

(「路上駐車回避」や「他車両接近」での手動介入が多い結果となった。)

(ウ) 乗客アンケートの結果

○82%の回答者が通常の路線バスと同程度以上の安全性を実感。

○回答者の 82%が「地域内を走っていて問題ないし、自分も利用する」と回答。

(エ) 住民アンケートの結果

自動運転が住民から受け入れられる上での課題を把握するために、実証実験を行
ったウッディタウン地区の住民を対象にアンケートを実施。

【アンケート調査の結果】

普段の移動手段	「通常の路線バスと同程度以上に 安心」と回答した住民の割合	「自動運転バスの社会実装を受け 入れられる」と回答した住民の割合
自家用車運転者	89%	92%
自転車運転者	92%	82%
歩行者	91%	85%

(4) 自動車走行データを活用した路面状況把握について

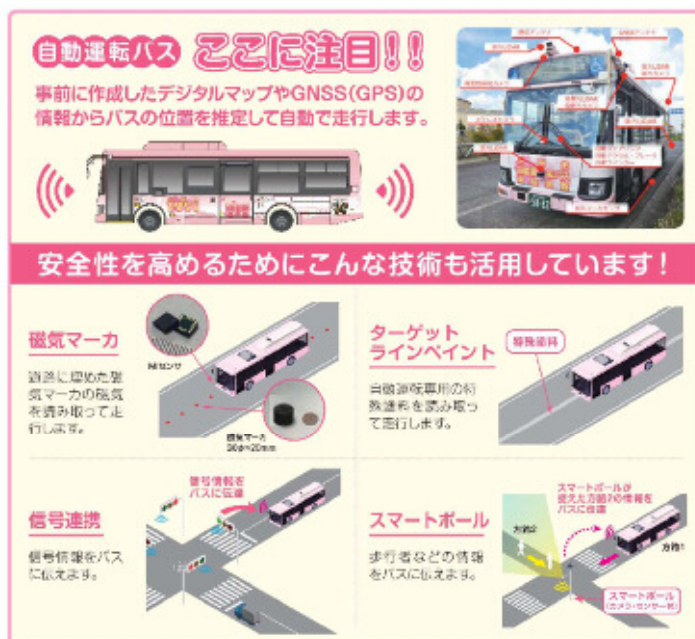
ア 背景

自動車の利用における「交通事故の低減」や「道路の維持管理」、「排気ガスの低減による脱炭素推進」、「渋滞緩和」などの様々な課題に対して、自動車の走行により収集可能なデータ (加速度や振動、位置情報など) を活用することで、課題解決につながるか実証に取り組むもの (「さんだ里山スマートシティ官民共創プラットフォーム会員」である「あいおいニッセイ同和損害保険(株)」との共同研究事業)。

イ 実証実験の概要

自動車保険契約者の自動車走行データから振動や加速度、位置情報などのデータを収集し、データの統計加工を施したうえで「道路異常の推定箇所」を地図上に可視化することで、市道等の路面状況 (要修繕箇所等) を把握し、日常の道路点検作業の負荷軽減等の業務効率化につながるか検証。

(ア) 実証実験の期間 令和 4 年 7 月～



(イ) 協力車両 (タグ装着車)

民間車両 約 1,000 台
道路パトロール車など

4 台

ウ 実証実験の結果

○高い振動レベルの場合
は、修繕を要する損傷との
相関性を確認。

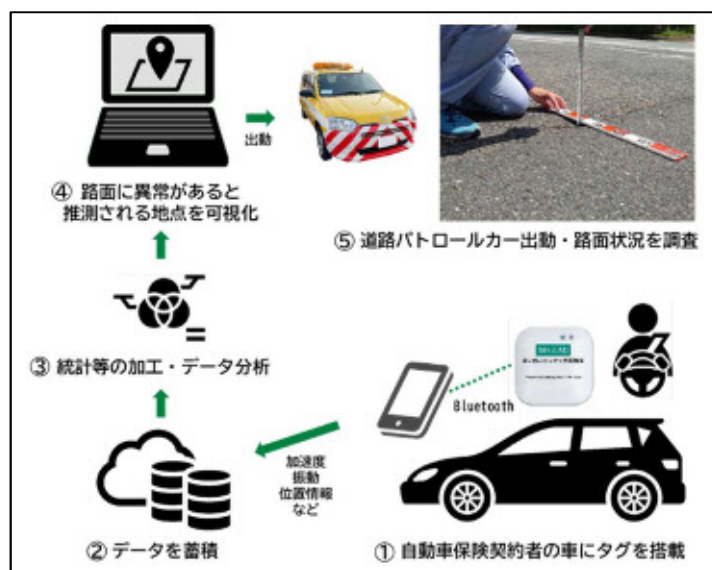
○低い振動レベルの場合
は、誤検知が多く、信頼性
は低いという印象。

⇒応急的な修繕対応への
活用は可能と思われる。

(現在、実用性を検証中で
あり、業務への導入には至
っていない。)

エ 今後の課題等

日常的に変化する振動の
検知による損傷データを収
集・整理することで、5年周期で行われる路面性状調査に代わるシステムの導入を目指しているが、低い振動レベルの信頼性が課題となっている。



3 主な質疑応答

Q：捕獲した鳥獣の処分方法はどのようにしているか？

A：動物炉を所有しており、そちらで焼却処分することとしている。

Q：自動運転バスについて、万一事故が発生した場合の責任の所在はどうなるのか？

A：現在、三田市が行っている実証実験は「自動運転レベル2」で、運転の主体はあくまで運転者となるため、事故発生時における責任の所在も運転者となる。

Q：このたびの自動運転バスの実証実験に際し、専用ルートを設定したのか？

A：バスのルートは実証実験に際して新規に設定したものだが、道路は既存のものを使用している。

4 委員所感

【田邊 学】

さんだ里山スマートシティの中で、主に害獣対策を委員会としては考えていたが、各所管を跨いで様々な課題と、三田の地域的な特徴とデジタル推進の活用として魅力的なまちづくりへの構想・計画がされていたことは、光市も見習うべきであると感じました。害獣対策においての問題点は光市同様に、捕獲隊の高齢化や人材育成が問題点であり、全国的な課題である事と、さんだ里山スマートシティ構想の枠組みのような形で市内横断的な取り組み、横の連携の推進など参考になりました。



【三田市議会議場にて】

【中村 譲】

「さんだ里山スマートシティ」は伝統的な里山の風土とデジタル等の最新技術を結びつけ、持続可能な未来を築く素晴らしい試みだと感じました。

特に、現在実証実験が行われている自動運転バスは、今後市民の移動を効率的かつ便利にサポートしていくことが確実に期待されると思います。

安全性の確保においても、様々なセンサーや制御システムが組み込まれ、地域の住民が安心して自動運転バスを利用できる環境が整いつつあると感じました。

また、スマートわたの導入により、タイムリーな捕獲情報が遠隔操作で確認でき、効率的な捕獲活動が期待できるとともに、日常管理の負担軽減及び人件費削減が図れていることも印象的でした。

視察を通じて感じたのは、地域住民と行政、そして企業が協力して「さんだ里山スマートシティ」を実現している点です。光市に於いても良い意味でみんなを巻き込み、魅力的なまちを作っていくことが大切と感じました。

【大田 敏司】

害獣対策について、被害状況は、令和2年度8,720千円、3年度9,808千円、4年度9,862千円と出ており、イノシシ・シカ・アライグマ・ヌートリアと数種類出て来ており、三田市鳥獣被害防止計画に基づいて「鳥獣の個体数減を目的とした捕獲活動」「鳥獣の農地への侵入を防ぐ防除策の設置」など複合的に取組んでおられ、鳥獣の個体数減を目的とした「三田市鳥獣被害対策実施隊」を組織され、現在市職員を含む27人が活動されておられました。

又、カメラ搭載害獣捕獲監視・通知センサーにより、捕獲画像をAI自動解析し、地図上での静止画像捕獲情報を遠隔操作によるPC及びスマートフォンで確認をされており、少しでも人間の手を借りずに科学的に積極的に取り入れられ実行されておられ感心致しました。

【河村 龍男】

＜さんだ里山スマートシティ＞

三田市鳥獣被害防止計画に基づき、兵庫県や関係機関と連携し、「鳥獣の個体数減を目的とした捕獲活動」と「鳥獣の農地への侵入を防ぐ防除柵の設置」など複合的な対策に取り組んでいるが、農作物被害額は毎年上昇している。特に近年はアライグマの被害が増加、イノシシは豚熱で減少しているが、鹿は横ばいで農会という自治会を強固にした独自の組織で取り組んでいるが成果は乏しい。そこでカメラ搭載害獣捕獲監視・通知センサーにより捕獲画像をAIが自動解析し、地図上での静止画像は捕獲情報を遠隔操作によりPC及びスマートフォンで確認可能となり、日常管理の負担軽減及び人件費削減が図れる。今後は事業効果及び課題を整理し、捕獲活動のエリア拡大の検討をするとのことでした。

＜中型自動運転バス実証実験＞

人口減少とニュータウンにおける急激な高齢化に対応するため、

- (1) これまで通学・通勤等を支えてきた路線バスのサービス低下
- (2) 地域商業エリアの魅力喪失
- (3) 行政支援の適正化
- (4) 路線バスのドライバーの担い手不足

の問題解決に向けて、路線バスに自動運転技術を活用し、誰もが移動しやすい活力のある街づくりを目指し、乗客・住民アンケートでも8割の方々が、社会実装後も利用し、受入れ可能と大きな評価があり、引き続き検討を進めるとのことで、光市でも今後の取組が待たれます。

【小林 隆司】

さんだ里山スマートシティ（デジタルを活用しながら「市民一人ひとりが幸せを実感しながら住み続けられるまち三田」）について理解を深めた。本政策を進めるうえで、さんだ里山スマートシティ官民共創プラットフォームを設置し、企業や団体、大学等の多種多様な組織が会員として参加する仕組みができています。これにより、様々な会員から課題解決のアイデアやソリューションの提案、さらに実証実験から社会実装にまでつながっていることは大変興味深く、市民力が最大限活用されていると感じた。本市でもデジタル推進に積極的に取り組んでいるが、これをより強力に進めるためにも官民共創のプラットフォームの設置が必要と感じた。また、市民健康アプリサービスに市民の健診情報を収集する機能があり、実態に即した健診受診率の算出につながっており、本市にも必要と感じた。

【笹井 琢】

市役所内に情報ICT担当部局を設け、各事業課と連携しスマートシティ推進する体制には驚いた。カメラと通知センサーを設置した箱毘は、公園区域の多い有馬富士・花山院鳥獣保護区に設置されていた。（幕末に光市室積で拘禁された公家花山院家理が篠山藩に幽閉された史実は知っていたが、地名として残っていることに驚いた）

自動運転バスはこれまで3回の実証実験を行っている。新しく造成された住宅地「ウッディタウン」は鉄道新設され道路幅も広いが、路上駐車車両回避には運転士操作が必要であった。遠隔相談窓口ボックスのアイデアは面白いが、企業による無償提供であり、税金投入するレベルではないと感じた。

【田中 陽三】

昭和の終わりごろから神戸や大阪のベッドタウンとしてニュータウン宅地開発から人口約3万人から約11万人に爆発的に増加し発展してきたが、横ばいから近年は人口減少に転じ、今後高齢化も進む危機感もあり、2020年にスマートシティに取り組む旨を公表しスタートしている。

官民共創や市民参加など基本的な方向性を公表し、官民共創プラットフォームを設置して市民や企業を巻き込んで取り組んでいる点は共感が持てた。

様々取り組まれている中で、特に自動運転バス実証実験の取り組みは、段階的にフェーズを上げて取り組む必要もあるので、公共交通確保の課題に直面している光市においても今すぐ取り組むべき事案であり、国の採択に向けて積極的な取り組みを提案していきたい。

【萬谷 竹彦】

まず様々な所管にまたがっている視察テーマで、たくさんの職員さんに説明して頂きました。感謝しています。自動運転バス実証実験では、安全性を高めるために磁気マーカー、ターゲットラインペイント等を活用し、いざという時のために運転手も搭乗しているそうです。実用化にはもう少しかかるかなと感じましたが、将来が明るくなる取り組みと感じました。スマート農業機械等導入支援事業、そしてスマートわな実証実験等も行っており、非常に参考になりました。「さんだ里山スマートシティ」を説明して頂きましたが、民間との積極的な連携が目立ち、やはり、この連携が必要不可欠なものであると認識しました。しっかりと参考にしていきたいと思えます。

【森戸 芳史】

デジタルを活用しながら市民中心で持続可能な課題解決を行うため、「着眼大局・着手小局」、「市民目線」、「分野や組織を超えた連携」の視点で果敢にチャレンジすることが素晴らしい。市民の皆様の要望や課題が複雑多岐にわたる中、有効な手法だと思う。